



produced by MEDIPLAT

2025年4月

衛生講話資料

変わる熱中症対策

2025年度法改正を整理

1. 2025年法改正概要

1. 概要
2. 改正の背景

熱中症は**予防**も大事ですが、
「絶対に死なせてはならない労災」です

2. 熱中症対策の基本

1. WBGT（暑さ指数）
2. 熱中症の症状
3. 熱中症を疑ったら
4. 熱中症の応急処置



2025年法改正概要（労働安全衛生規則）

「熱中症を生じるおそれのある作業」 を行う際に、

① 報告体制の構築・周知義務

- ・ 熱中症の**自覚症状がある作業者**（本人）
- ・ 熱中症のおそれがある作業者を**見つけた者**が**報告**するための体制（連絡先や担当者）を事業場ごとにあらかじめ定め、作業者に周知

条件
① WBGT28℃以上
or
気温31℃以上

and

条件
② 継続して**1時間**以上
or
1日あたり4時間以上

② 重症化予防対策

- ・ 作業からの離脱・身体冷却
- ・ 必要に応じて医師の診察
- ・ 事業場における**緊急連絡網、緊急搬送先**の連絡先および所在地など、「**熱中症の症状の悪化を防止するために必要な措置**」の**内容・手順**を事業場ごとにあらかじめ定め、作業者に周知

① リスクの把握

適切な対策には**WBGTの測定が必須**（法では努力義務）
→気温測定だけでは不十分！
※示された気温以下なら対策不要という意味ではない

例
気温が29℃ & 湿度70%
→WBGTは**28℃**！

② 早期の発見・報告

作業より体調を優先し、「少しでも怪しい」なら**まず報告**を
→本人だけでなく、周囲が発見したときの対応も教育

③ 早期の対処

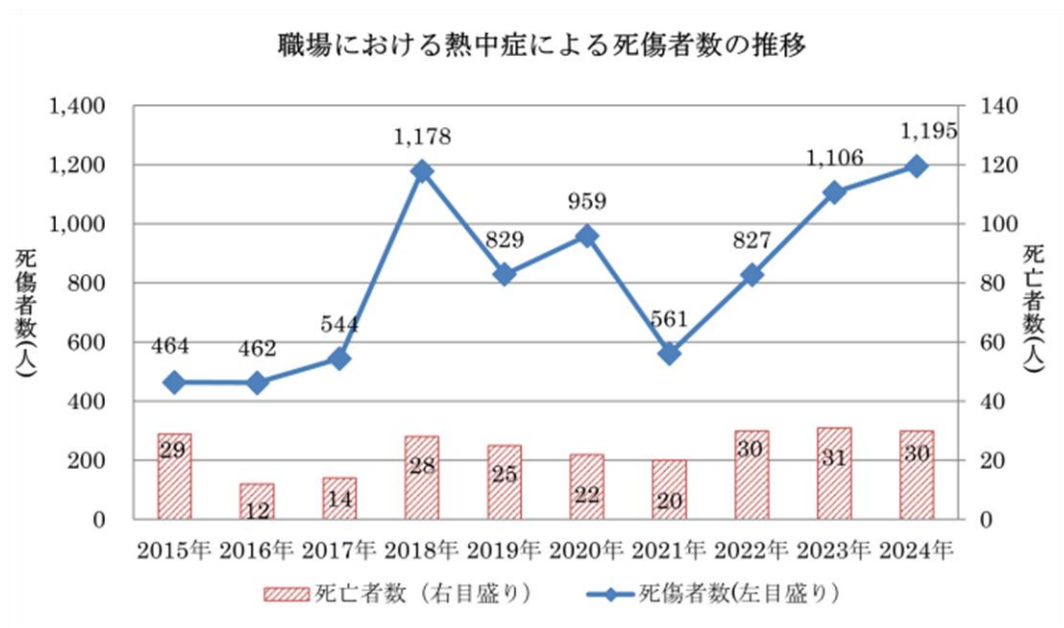
「体温が高くないから様子見た」で死亡事例あり
→熱中症発生時の救急対応を周知・統一化すること（マニュアル・資料作成など）

法改正には含まれていないが、「発生の予防」も忘れずに

職場での熱中症

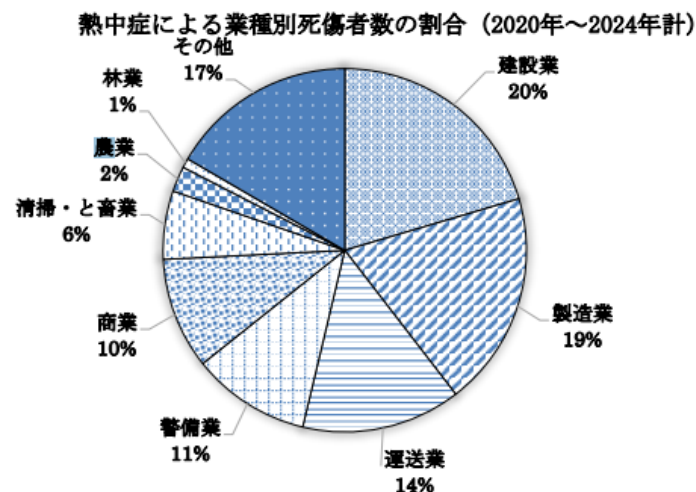
■ 職場における死傷者数の推移（2024年）

休業4日以上 **1195人**（うち死亡者数 **30人**）



死亡者数が
減っていない！

全体の4割が
建設業 + 製造業



熱中症は適切な対応で防げる労災
→特に死傷者は出さない対策を！

熱中症死亡者の特徴（平成25年）

■ 30名のうち・・・

28人	<u>WBGT値の測定</u> を行っていなかった。	}	作業環境の不備
30人	計画的な 熱への順化期間 が設定されていなかった。		
12人	<u>体調不良後すぐに救急搬送</u> せずに様子を見ていた。	}	救急対応の不備
11人	単独作業 を実施していた。		
14人	自覚症状の有無にかかわらず 定期的な 水分・塩分の摂取 を行っていなかった。	}	作業管理の不備
15人	<u>休憩場所</u> を設置していなかった。		
16人	定期健康診断 が行われていなかった。	}	健康管理の不備
14人	糖尿病等の影響を与えうる 疾病 を有していた。		
4人	当日の朝、 体調不良 があった。		

※下線は今回の法改正で触れられた内容

WBGT（暑さ指数）とは

熱中症予防のための「暑さ」の指標

→「気温」ではない！

- ① その場の気温・湿度から求める→
- ② 地域のWBGT値を調べる↓



その他予防情報や
メール配信も活用を



気温(°C) (乾球温度)	相対湿度(%)																
	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
40	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
39	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43
38	28	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42
37	27	28	29	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41
36	26	27	28	29	29	30	31	32	33	34	34	35	36	37	38	39	39
35	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	38	38
34	25	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	37
33	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	32	32	33	34	35	35	36
32	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	31	32	33	34	34	35
31	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	30	30	31	32	33	33	34
30	21	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	29	30	31	32	32	33
29	21	21	22	23	24	24	25	26	26	27	28	29	29	30	31	31	32
28	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	30	31
27	19	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28	29	29	30
26	18	19	20	20	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27	28	28	29
25	18	18	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28
24	17	18	18	19	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27
23	16	17	17	18	19	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26
22	15	16	17	17	18	18	19	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25
21	15	15	16	16	17	17	18	19	19	20	20	21	21	22	23	23	24
WBGT値	注 意 25℃未満		警 戒 25℃～28℃		厳 重 警 戒 28℃～31℃		危 険 31℃以上										

(ここで、28℃～31℃は、28℃以上31℃未満の意味)

(日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」Ver.1 2008.4 から)

暑い環境は必ず測定をすること！

※測定時はJIS規格(B7922)適合品を用いる

厚生労働省、「熱中症を防ごう！」リーフレットより引用

熱中症の症状

体温が上昇して重要な臓器が高温にさらされ発症する**障害**の総称

熱中症の症状と重症度分類

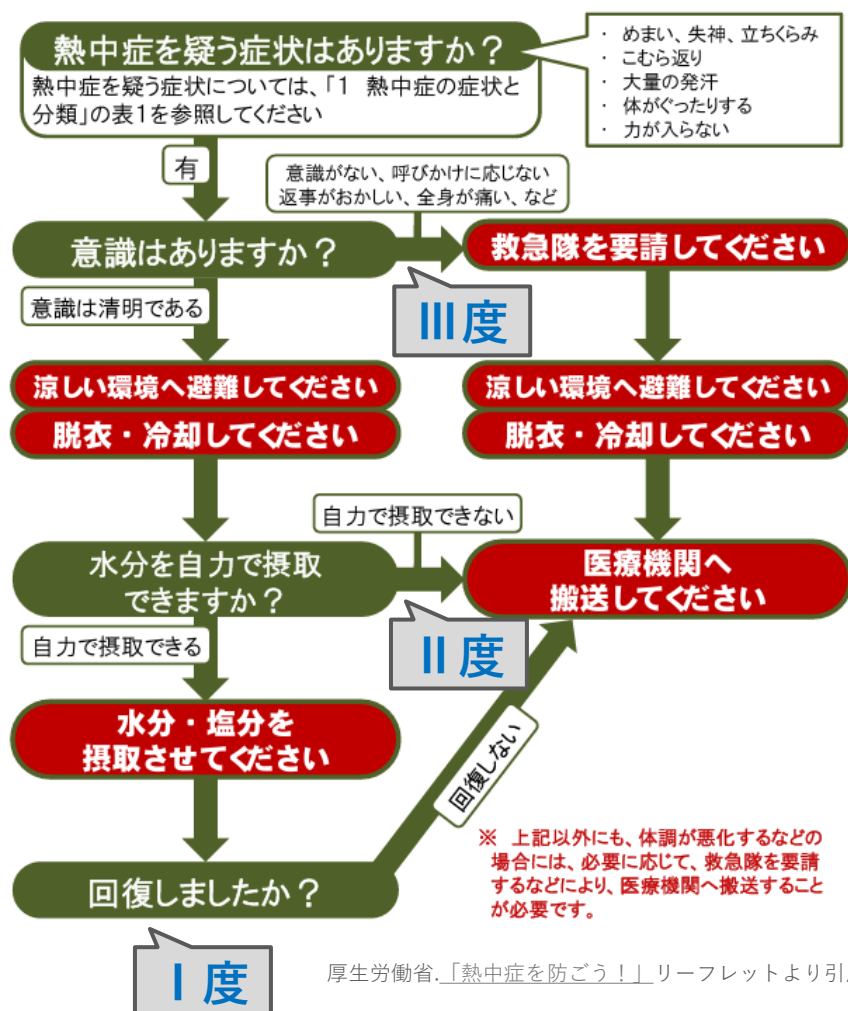
重症度	イメージ	実際の症状	レベル
I 度	歩ける 分かる 	めまい・失神（たちくらみ）・生あくび 筋肉痛・筋肉の硬直（こむら返り） 大量の発汗	軽 ↓ 重
II 度	歩けない 分かる 	頭痛・気分の不快・吐き気・おう吐 倦怠感・虚脱感（体に力が入らない等） 集中力や判断力の低下	
III 度	歩けない 分からない 	意識障害・痙攣・手足の運動障害・高体温 （呼びかけへの反応がおかしい、ガクガクと ひきつけがある、まっすぐ歩けない等）	

放置すれば
後遺症・死亡も

重症型は
死亡率 $\geq 30\%$

熱中症？と思ったら

すぐに対応・迷ったら重症扱いが原則



重症度	イメージ	基本的な対応
I度	歩ける 分かる	職場で休養 →病院or落ち着いたら帰宅
II度	歩けない 分かる	速やかに医療機関を受診
III度	歩けない/ 分からない	すぐに救急要請 & 徹底的に冷やす

重要ポイント

- 意識がなければ**即**救急車
(上司への報告より先！)
- とにかく**冷やす**
(人を集めてできること全て行う)
- 絶対に**1人にしない**
(涼しくしても症状が進行する場合も)

厚生労働省、「熱中症を防ごう！」リーフレットより引用

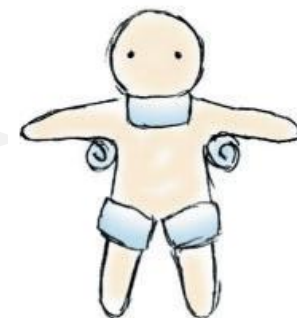
① 適切なトリアージ

意識がない → ①周囲の助けを呼ぶ、②救急車を呼ぶ、③他の対応
水が飲めない → ①周囲の助けを呼ぶ、②他の対応をしつつ医療機関へ搬送

② 安全な場所で冷やす

- ① 涼しい場所へ移動する
 - ② 衣服を脱がす
 - ③ 体を冷やして体温を下げる
 - ④ 塩分や水分を補給
- ※意識がはっきりしない場合は水分禁止

太い血管のある**脇の下**、
両側の首筋、
足の付け根を冷やす



環境省、「熱中症環境保健マニュアル 2022」より引用

② 1人にせず見守る

最初元気でも、既に進行しているとあとから悪化することもある
→救急隊に引き継ぐ/医療機関へ搬送/症状が完全に消失 まで誰かがつく

最初の対処が適切かで、その後が大きく変わる！